

03

将来像と目標

3-1. まちづくりの基本的な考え方

3-2. 将来像

3-3. 目標

3-1 まちづくりの基本的な考え方

札幌市のまちづくりの最上位計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」では、もみじ台地域は一定の生活利便機能を有する低層住宅地を主とするエリアである「郊外住宅地」として位置付けられており、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境の維持を目指すこととしています。

また、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」のうち、都市空間に関わる事項を受けて定める都市づくりの全市的な指針である「第2次札幌市都市計画マスタープラン」においても、「郊外住宅地」として、人口減少が進む中でも生活利便性や交通利便性を確保しつつ、良好な住環境の維持・向上や持続的な地域コミュニティの形成を目指すこととしています。

これらの上位計画を踏まえ、今後、人口減少が見込まれる中、もみじ台地域の閑静で良好な住環境を維持しつつ、持続的な地域コミュニティを形成していくため、若い世代をはじめとした多様な世代の流入を促し、誰もが安心して住み続けられるまちを目指すことをもみじ台地域のまちづくりの基本的な考え方としました。

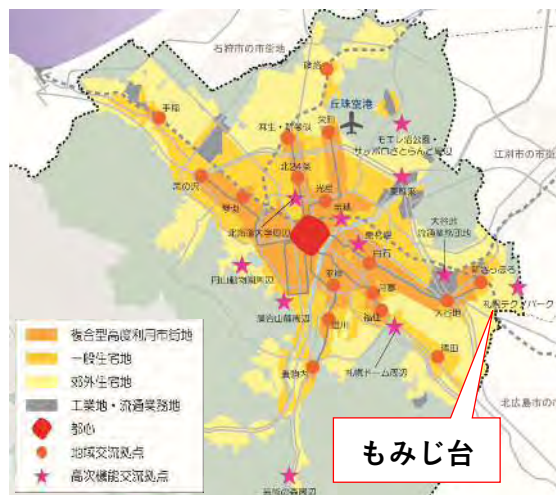


図 3.1 総合的な取組の方向性

資料：第2次札幌市都市計画マスタープランより抜粋

計画名	もみじ台地域の位置づけやまちづくりの方向性
第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン 【令和4年策定】	一定の生活利便機能を有する低層住宅地を主とするエリアである「郊外住宅地」として位置付け、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境の維持を目指す。
第2次札幌市都市計画マスタープラン 【平成28年策定】	「郊外住宅地」として、人口減少が進む中でも生活利便性や交通利便性を確保しつつ、良好な住環境の維持・向上や持続的な地域コミュニティの形成を目指す。

<まちづくりの基本的な考え方>

今後、人口減少が見込まれる中、もみじ台地域の閑静で良好な住環境を維持しつつ、持続的な地域コミュニティを形成していくため、**若い世代をはじめとした多様な世代の流入を促し、誰もが安心して住み続けられるまちを目指す。**

3-2 将来像

まちづくりの基本的な考え方や、地域が作成した「もみじ台まちづくりビジョン」及び「もみじ台地域まちづくり指針検討委員会」での意見等（以下「地域議論等」という。）を踏まえ、もみじ台地域が目指すまちの将来像を設定しました。

もみじ台地域では、住宅団地の開発以降に形成してきた豊かな住環境や長きにわたり大切に培われた地域コミュニティ等の地域資源が、地域で暮らす方々の思いや愛着が積み重なるかけがえのない財産となっています。

いままで大切に積み重ねてきた地域資源を生かしながら、これからは多様な住まい方を実現し、様々な世代の交流を生み出すことにより、“いままで”と“これから”が共存し、にぎわいが生まれる新たなもみじ台のまちを目指します。

＜もみじ台地域が目指すまちの将来像＞

“**いままで**”と“**これから**”が共存し
にぎわいが生まれる新たなもみじ台



3-3 目標

地域議論等を踏まえ、目指す将来像を実現するための3つの目標を定め、目標達成に向けて重要となるまちづくりの視点について、目標ごとに「取組の方向性」を整理しました。

目標 1 若い世代をはじめとした様々な世代が住みたくなるまち

<取組の方向性>

1) 多様な住まい方の実現

～ライフスタイルに応じた多様な住まい方を実現する住環境づくり～

若い世代から高齢者まで様々な居住ニーズに対応し、戸建て住宅や共同住宅、高齢者向け住宅など、ライフスタイルに応じた多様な住まい方を実現する住環境づくりを目指します。

2) 子どもと子育て世代の支援

～若い世代や子育て世代が住みやすい環境の整備～

子どもたちが安心して遊び・過ごせる場や、子育て世代の交流や地域における子育て支援の充実など、若い世代や子育て世代が住みやすい環境の整備を目指します。

3) 教育環境の充実

～子どもたちの可能性を広げる学びや成長の機会の充実～

子どもの発達や意欲・能力などに応じた柔軟かつ効果的でつながりのある教育のほか、学校・家庭・地域・企業で連携しながら多様な学びの機会を提供するなど、子どもたちの可能性を広げる学びや成長の機会の充実を図ります。



目標2 にぎわいにあふれ新たな交流が生まれるまち

<取組の方向性>

4) 公共資源の活用

～民間活力の導入も見据えた市営住宅等の公共施設跡地の活用～

持続可能な住環境の形成や地域の活性化に向けて、地域の魅力や生活利便性を高める機能など、民間活力の導入も見据えながら、市営住宅等の公共施設の再編により創出される跡地の有効活用を図ります。

5) にぎわい・交流の創出

～中心部や幹線道路沿いを中心に、地域のにぎわい・交流を創出する機能の誘導～

地域の魅力を高めるため、地域の中心部や幹線道路沿いを中心に、地域の方々が集まり多様な活動が行われる場を形成するなど、地域のにぎわい・交流を創出する機能を誘導します。

6) 地域コミュニティの維持・形成

～互いに支え合い、誰もが自分らしく活躍できる地域を目指し、住民同士の交流を継続しながら、持続的な地域コミュニティを形成～

互いに支え合い、誰もが自分らしく活躍できるよう、これまで培ってきた住民同士の交流を継続しながら、多様な世代の交流を促し、まちづくりの担い手を育成・確保するなど、持続的な地域コミュニティの形成を目指します。

7) 周辺地域との連携

～新さっぽろやテクノパークなど周辺との連携～

地下鉄・JR駅が立地し多様な都市機能が集積する新さっぽろと近接していることを生かした取組や、周辺の教育機関及びIT・バイオ産業の研究開発拠点であるテクノパークの企業とのつながり・交流促進など、周辺地域との連携強化を目指します。



<取組の方向性>

8) 豊かな住環境の維持

～みどりが豊かで暮らしやすい閑静で良好な住環境を維持～

地域の特徴でもある、みどり豊かで閑静な住環境を大事にしながら、バリアフリー化の推進や自然と調和した魅力ある街並みの形成を図るなど、誰もが安心して快適に暮らすことができる良好な住環境を維持できるよう取り組んでいきます。

9) 交通利便性の確保

～地域の移動を支える交通網の維持などによる交通利便性の確保～

地下鉄・JR駅が立地する新さっぽろと近接していることや、中心部に商業・地域コミュニティ機能を有するもみじ台地域の特性を踏まえ、通勤・通学、買い物などの地域の移動を支える交通網を維持するなど、交通利便性の確保に努めていきます。

10) 環境への配慮

～環境に配慮した持続可能なまちづくり～

脱炭素社会の実現に向けて、廃棄物のエネルギーを有効活用する熱供給システムが導入されている地域特性も考慮しながら、公共施設の更新・跡活用における施設の省エネルギー化及び再生可能エネルギーの利活用の検討など、環境に配慮した持続可能なまちづくりを目指します。

11) 災害への備え

～地域特性も踏まえた災害に強いまちづくり～

積雪寒冷地の地域特性や、少子高齢化の進行といった課題も踏まえ、地域・企業・学校等の関係者と連携しながら、公共施設の更新や災害時の避難場所の確保、防災意識の醸成、協力体制の構築など、災害に強いまちづくりを目指します。

12) 先端技術の活用

～ICT技術の活用や官民のデータ連携等による生活利便性の向上～

企業や教育機関とも連携しながら、ICT技術の活用や官民のデータ連携等により、生活支援や健康増進、コミュニティ活性化などの分野にわたるサービスの提供を目指すなど、地域の生活利便性の向上に資する取組を推進します。



“つなぐ、つむぐ、つくる” 共創型スマートシティ「新・さっぽろモデル」

札幌市では、再開発が進み都市機能が集積する「新さっぽろ地区」と、少子高齢化が進む周辺の住宅地である「もみじ台・青葉地区」の連携による相互発展のため、国の「デジタル田園都市国家構想」による交付金を活用しながら、先端技術を活用した地域の課題解決や魅力向上に向けた取組を進めています。

まずは、様々な事業者がオープンなデータ連携基盤を活用しながら、もみじ台・青葉地区に居住する高齢者を対象に、日々の健康チェックの結果に応じた健康相談や日常生活でのお困りごとに対するサービスとのマッチングなど、生活支援・健康増進・コミュニティ活性化に資するサービスの提供を予定しています。

今後はテクノパークや大学との連携も検討し、地域の住民が多様な関係者と関わることにより幸せを感じられるよう、地域の生活利便性向上に資する多様なサービスの展開を目指します。